



「不屈」No.585 附録  
新潟県版 No.321

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
新潟県本部

〒950-0843 新潟市  
東区粟山 3-8-1  
小日向 昭一 気付

TEL 090-2972-9678

主な記事

- 「原菊枝顕彰碑」 建立実行委員会が発足
  - 大軍拡・大増税を阻止しよう  
連載特集
  - 「満蒙開拓団」ーその国策とわが一家の足跡③  
新潟県における戦後の革新運動の昂揚とレッドパージ③  
シリーズ 「私と国賠同盟」
  - シリーズ 「私と国賠同盟」  
60年前、生きざる希望を見つけた
- 2023年3月 県理事會  
須田 一彦(阿賀野)  
相沢 寛(新潟)  
佐藤勝太郎(小千谷)

「原菊枝顕彰碑」  
建立実行委員会が発足

二月二十三日、「原菊枝顕彰碑」 建立実行委員会の設立会議  
が開催されました(写真)。

実行委員会には、弁護士、大学教授、女性団体役員、労働団  
体役員、美術館館主、声楽家など、各界の多彩な方々十三名が  
代表委員に就任され、本年五月末の建立をめざして運動を展開  
することとなりました。

会議では、碑建立の意義と目的を明らかにしたアピール文や、  
碑文の内容などが確認され、予算案や『女子党员獄中記』の再  
販(三百部)も承認されました。また原菊枝の生涯を学ぶ講演  
会の開催や、原菊枝の出身地・五泉市での建立も今後の検討課  
題とすることが議論されました。今後、広く賛同人を組織し、  
建立資金の募金運動などに取り組みます。

国賠同盟の皆様のご協力を心から訴えます。

# 大軍拡・大増税を阻止しよう

2023年3月10日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟新潟県本部 県理事会

## 【1】2月の行事・活動報告

- ① 2月1日(水) 常任理事会 人での純増は1人だった。
- 「不屈」編集委員会
- ② 2月9日(木) 県理事会
- ③ 2月23日(木) 休「原菊枝顕彰碑」建立実行委員会設立会議
- ④ 2月の会員拡大は3人、会員減は2

2月の新入会員	
支部	お名前
上越	関口真由美 さん
〃	北峰義己 さん
新潟	北村 新 さん

2023年 2月末の到達

支部	会員人数	2月の会員増	2月の会員減	誌友人数	国賠署名数							
					出会への年の提		願年の名数		署名日1年5月1日までの1		累計後の署名	12日以
					個人	団体	個人	団体	個人	団体		
新潟	127	1	1	2	1,017	10	659	2	210			
長岡	32				1,177	12	170		105			
上越	58	2		1	10		208		148			
阿賀野	16				42		131		30			
新発田	10						10					
五泉	6				10		26					
黒埼	7			1	25	15	33	7				
豊栄	12				9	1						
新津	20			1	7	1						
三条	6				59	3	31					
小千谷	10				223	2	260		42			
柏崎	6						10					
魚沼	13				78		63		75			
佐渡	4				50		20	2	10			
点在	11			1			17					
県本部							11		10			
県合計	337	3	2	5	2,625	44	1,649	11	630			

## 【2】情勢の特徴と同盟の立場

- ⑤ 2月の国賠署名増は156筆 (上越96筆、新潟60筆)だった。

### (1) ロシアのウクライナ侵略1年

ロシアによるウクライナ侵略開始から1年。国連人権高等弁務官事務所は、ウクライナ民間人の被害について東部など戦場が

激しい地域を除き死者数が少なくとも8006人、負傷者数は1万3287人にのぼること、この数字は「氷山の一角」だと発表された。2月の国連総会緊急特別会合は、ロシア軍の即時撤退、国連憲章の原則に従ったウクライナの永続的な平和を求める決議案を加盟国の7割超にあたる141カ国の圧倒的多数で採択した。

ウクライナ情勢から学ぶべき教訓は、いったん戦火が開かれれば、国土が戦場となり、大量の犠牲者が避けられないということである。ウクライナ情勢を口実として大軍拡を推進しようとする岸田文雄政権による戦争国家づくりは、日本とアジアの平和にとって重大な逆流となっている。「国連憲章を守れ」の一点での国際社会の団結強化への国際世論と、岸田政権にたいし「大軍拡・大増税NO」の声を圧倒的に高めることがいよいよ急務となっている。

(2) 学術会議法改悪、放送法解釈変更は戦争国家への道

岸田政権は、学術会議に「政府等と問題意識や時間軸を共有」することを要求し、会員選考に「第三者委員会」制度を導入してその独立性を侵害する法改悪をめざしている。「学問の自由」は、戦時下に学者たちが戦争に動員され、残虐な兵器の開発など戦争政策に協力させられた歴史への痛恨の反省から今の憲法に規定されたものである。法改悪の動きは、再び学術会議を戦争国家づくりの僕(しもべ)にしようという策謀である。

安倍政権時代、高市早苗総務相が「政治的公正を欠く放送」と判断した場合、放送局に電波停止を命じることもあると発言し批判を浴びたが、それは官邸幹部が特定の番組を問題視して総務省に放送法の解釈変更を迫ったことによるものではないかとの疑惑が明らかになった。これは戦前、ラジオ放送が「大本営発表」を垂れ流し、国民を戦争に動員した過ちを彷彿させる動きとして重大であり、決して許してはならない。

【3】3月の行事・活動計画

- ① 3月1日(水)「原菊枝顕彰碑」建立事務局会議
- ② 3月2日(木)「不屈」編集委員会
- ③ 3月6日(月)常任理事会
- ④ 3月7日(火)戦争展県実行委員会
- ⑤ 3月10日(金)県理事会

【4】会員拡大・署名

- ① 3月の会員拡大目標：純増3名以上 6月開催予定の県本部大会までに350名を目指す。
- ② 3月の国賠署名増目標：400筆以上

【5】支部の再建・強化

柏崎、五泉での支部活動強化をさぐる。映画「千代子」上映を契機に。

【6】「新潟県治安維持法犠牲者名簿」の頒布

会員各位におかれましては、地元治安維持法犠牲者をぜひ知っていただきたいと思えます。1冊 1600円です。県本部・支部にお申し込みを。

【7】映画「伊藤千代子の生涯」上映運動

- ① 五泉市で上映の具体化：2月25日試写会実施。7月29日映写：ラポルテ五泉午後2時
- ② 柏崎市で上映の具体化：3月12日、上映会開催。

【8】100周年・木崎争議の教訓を語り継ぐとたくみ

新潟市北区、秋葉区、西区、中央区での開催を一斉地方選後具体化。

【9】「原菊枝顕彰碑」建立運動

「原菊枝顕彰碑建立実行委員会」を2月23日設立して、3月1日、第1回事務局会議を開催した。碑建設などのために150万円カンパを集める予定。同盟員各位におかれましても、特段のご協力をお願いします。今月の「不屈」にアピール文とカンパ振込用紙を同封しました。

【10】その他

- ① 6月に県本部大会開催の予定です。
  - ② 4月の県理事会は4月13日(木)13時30分〜クロスパルにいがた4階ゼミナール室で開催。
- 候補者に「必勝」ポスターを届け、激励します。

- ③ 国賠同盟会員の統一地方選挙



連載特集

「満蒙開拓団」―その国策とわが一家の足跡

第3回

須田一彦 (阿賀野)

2、なぜ満州へ進出したのか―国内外の状況

① 国内状況《農村の状況》

当時の農村は、「昭和農村大恐慌」と言われたように、大変疲弊してしました。それは、昭和4年の世界恐慌のおおりで、生糸の輸出減・暴落、5年の豊作値下がり、6年の東北冷害凶作などで、失業者の増加と帰農、土地不足、欠食児童、娘の身売り、小作争議などが頻発する時代でした。

一方満州は、土地の56%が未開地であり、農産物は数年後には3倍になるだろう、石油以外は輸入品の大部分は満州から調達できるといふ、「夢の大地満州」が浮かびあがってきたのです。農村の貧困は甚だしく、松の甘皮を向いて食べる東北農民、野宿する都市失業者、役場には身売り相談所の看板が設置される状況でした。

この農村の疲弊を救うため「農村厚生運動」が行なわれ、打開策の一つとして各集落には「満州への移民数」が割り当てられました。

分村移民達成村には、村予算の1、5倍の奨励金が交付されました。満州への移民は、①「五族協和」(中国・満州・蒙古・朝鮮・日本)、「王道楽土」(正義・寛容・道義による政治が行われ、民が幸せに)②「大東亜建設」(欧米の植民地支配からアジアを開放する)をスローガンに、「満蒙は日本の生命線」お前もゆくなら俺もゆく、「興亜の礎足らん」「大陸の花嫁」と国民を煽ってゆきます。

一方、この農村の疲弊を解決できない政治への失望・不満を背景に、軍部が台頭してゆきます。当時の軍隊の出身地の47%は農村からでした。農村救済・「昭和維新」を叫ぶ青年将校を中心に、軍主導

の内閣を求め要人の殺害攻撃が頻発するようになります。このクーデターは失敗に終わりますが、この事件は政党政治の終焉と軍事国家体制の始まりとなります。

②国外状況《ソ連南下への恐怖》満洲への進出は、農村の状況とともに、もう一つ軍の野望がありました。「先人の血と汗(日清・日露戦争で十万を超える戦死者)で勝ち取った満州を絶対外国に渡せない」というのが、軍の基本方針でした。当時、ソ連が5か年計画の成功によって国力が増大し、国境に軍事力を増大してきました。このソ連の南下に備えて、中国の支配から離れた軍の自由になる地域をつくっておきたいという野望が、満州事変から満州国の建国、その後の支那事変・華北獲得へと戦線を拡大してゆくことになりました。

③戦時統制《教育・思想・文化統制》昭和8年長野県下で、民主的教員の大量検挙が行われました。この年にはすでに小林多喜二が虐殺されています。それから矢継ぎ早に、思想局の設置、国民精神総動員法、国家総動員法、教育勅語、大政翼賛会、紀元二千六百年など戦時体制と統制が強化されてゆきます。わが一家はこの昭和15年の暮れに満州へ渡ります。また労働組合も翼賛体制になり、「挙国一致、一億一心」などの標語のもと、ストライキなどは自主的に規制してゆきます。木村伊兵衛、土門 拳など戦後活躍する文化人も戦争体制へと組み込まれてゆきます。

④《報道機関／ラジオ新聞》

報道機関は、「戦意高揚こそ報道の任務」として、戦争のことを「聖戦」というようになります。昭和7年には、商業紙132社が「満州国建国支持」の宣言をし、軍と報道機関の幹部は蜜着し、都合の



連載特集2

# 新潟県における戦後の革新運動の昂揚と

## レッドパーージ

### 第3回

相沢 寛 (新潟)

#### (2)、アメリカの占領政策の転換―事実上の従属国へ

日本は降伏の際に受諾した「ポツダム宣言」には、軍国主義の一扫と平和的、民主的な日本の建設を明記しており、その実行を使命とするのが連合国の軍隊・アメリカ占領軍でした。だから占領の初期には、一連の民主的措施を取りました。しかし、アメリカは占領の途中から、「ポツダム宣言」をふみにじり、事実上の単独占領にきりかえ、アメリカの前進基地化の企みをめぐるせはじめました。

そこにはアジア情勢の新展開がありました。アメリカは、戦後の初期には、蒋介石が支配する中国をアジア戦略の拠点にするつもりでした。ところが中国革命が前進し(10月1日、中華人民共和国樹立)、ソ連との対立がひろがるなかで、中国に代わって、日本をアジア戦略の重要拠点として固める政策に急速に転換していきまし

た。その最初の現れが47年の「1ゼネスト」の中止命令の弾圧でした。

48年1月、アメリカのロイヤル陸軍長官は、サンフランシスコで演説し、日本を極東における「主体主義(共産主義)の防波堤」とのべました。2月には、フォスタル国防長官が日本の再軍備についての研究を命じました。

7月、マッカーサーは、吉田首相に書簡を送り、政令201号(公務員法改正)で、250万の全官公労働者から憲法で保障された団体交渉権とストライキ権を剥奪しました。また、「共産党の組合支配の排除」を相言葉に、産別会議、全労連など戦間的労働運動の破壊をめざす反共組織づくりに公然とのりだしました。それに励まされて、労働運動内の右派勢力(総同盟)が、反共分裂策動の先頭に立

ちました。

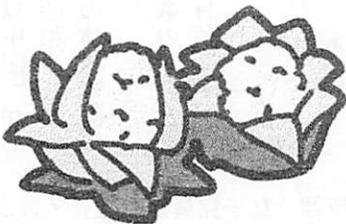
アメリカは、日本の軍事基地化を急ぎ、講和条約と同時に軍事同盟条約を結んで、占領下につくった軍事基地をそのまま「条約によつて提供された基地」として存続させる手立てを取りました。また48年12月、「経済安定9原則」(ドッジ・ライン)にもとづく一連の財政、金融、労働政策によつて、日本経済をドル支配体制への取り込みをはかりました。

これは、総予算の均衡、増税、賃金抑制、国鉄運賃・郵便料値上げ、社会保障費・教育費の削減、農業や中小企業への補給金打ち切りなどを主な内容とするもので、日本をアメリカのアジア前線基地化をめざして、国民の負担と犠牲のもとで、日本独占資本の経済的基礎を築くものでした。そのきびしいデフレ政策のもとで、「企業整備」(工場閉鎖・企業縮小・人減らし合理化)で大量な人員整理が強行され、労働者や勤労人民に

とつて、耐えがたい深刻な打撃を与えることになりました。中小企業の倒産は、49年に入ってから1年間に1万546企業、整理人員は43万5000人にのぼりました。

49年6月には、267300人の人員削減を内容とする定員法が制定され、官公庁でも「行政整理」の名のもとに大量首切りが行われました。

アメリカの対日占領政策の転換、沖縄での本格的な基地建設の開始をはじめ、日本のアジア前線基地化の強行は、日本国民の大きな抵抗が予想されました。



◆「私と国賠同盟」

六十年前、生きる希望をみつけた

佐藤勝太郎(小千谷)

十五年戦争ともいわれる日本が始めた侵略戦争は、アジアで二千万人、わが国でも三百万人もの命を奪った。原爆の投下と度重なる空襲で全土が焦土と化した。

私は終戦時、四歳であった。長岡の空襲以外怖い思いをしなかった。戦後の食糧難の方が辛かった。当時近くの船岡山が子ども達の遊び場であった。五、六歳上の子が蛇を捕まえ、皮をむいて焚き火で焼いてくれた。まずいとは思わなかったが、小骨の多さに閉口した。母が高梁(コーリヤン)の団子を作ってくれたが、

塩も砂糖も無く、歯ぐきにべつとりくつつき、飲み込むこともできず、子供心にこんなまずいものが食えるかと思つた。

父が復員しても家業の畳仕事はほとんど無かつた。たまにあつた仕事は一日働いてさつま芋二貫目

(7.5kg) もらつただけ。超インフレの時代で現金でもらうより助かつたと言つていた。

母は往復五、六キロのいなか道を歩いて知り合いの農家からヤミ米を分けてもらつた母は「嫁入り道具に持ってきた着物などは全部食物と交換した。戦争貧乏だ」と語つた。

貧乏な家庭に育つた私は、小学校卒業式の時、三年後には働くぞと自分に言いきかせていた。中学に入り、進路の調査票には「畳屋になる」と親に相談しないで出した。

転機は十七歳に訪ずれた。若者の集まりである「緑の会」に入会したのである。そこは別世界であり解放区でもあつた。会員は三十名位いた。年令は十七、八歳から三十歳位であつた。集まりは当時電休日であつた火曜日、歌い話し合い楽しい時間を過し笑い声が絶えな

かつた。

その会合で「アカハタ日曜版発刊記念演説会」のチラシをもち、長岡市で行われた演説会に参加した。弁士は野坂参三議長、樋口幸吉県委員長、他であつた。安保条

約改訂に反対し平和な日本を、民主主義とくらしを守るという筋道の通つた話に感動した。最後にアカハタを読んでほしい、共産党に入党してほしいと二つの訴えがあつた。その場で日曜版を申し込み、翌四月から日刊紙を長岡分局

から郵送してもらつた。共産党に入りたいという思いは日々強くなつた。

その頃、日本も小千谷市も大きく変わろうとしていた。安保反対のたたかいは全国に広がり小千谷でも安保共闘が結成された。ただ、小千谷では社共両党、地区労、日

農の他市婦人団体協議会、市青年団協議会、平和婦人新聞読者会(新婦人の前身)、緑の会等が参加したため、それらの団体には共闘という言葉がなじまないという配慮から合同会議とした。その後、毎月のように会議、集会、デモ行進を繰り返した。上野行夜行列車、通

称「安保列車」に乗つて何度か中央行動(国会請願)にも参加した。他にうたごえ運動、平和友好祭などの青年運動、原水爆禁止運動も盛り上がつていた。

その頃読んだ主な本は、「第二貧乏物語(角川文庫)」、「獄中十八年」、「共産主義読本(上)」、「山宣」など、これらの本は背中を押してくれた。演説会から半年後に入党し、その一員に加わることができた。この時ほど嬉しかつたことはなかつた。

あれから六十有余年、負けそうになつたことも、へまをやつたことも沢山あつた。しかし、もしも党を知らなかつたら、つまらない人生だつたと思う。十五年戦争の最大の教訓の一つは、天皇制軍隊は国民を守らなかつたことだ。現在はどうか。敵基地反撃能力所有だけではない。自衛隊司令部を地下に保護し最後まで戦争をつづける計画だ。地上の国民はそつちのけではないか。統一地方選挙に必ず勝ち、岸田内閣打倒ののろしを上げよう。体も頭も弱つたが、これからも頑張つて行きたい。

文芸

俳句と絵手紙

文芸

俳句

一と晩を味噌に寝かせし独活の味  
帰る日は明日かも雁の一万羽  
蓋開けて日に当たりをる田螺かな

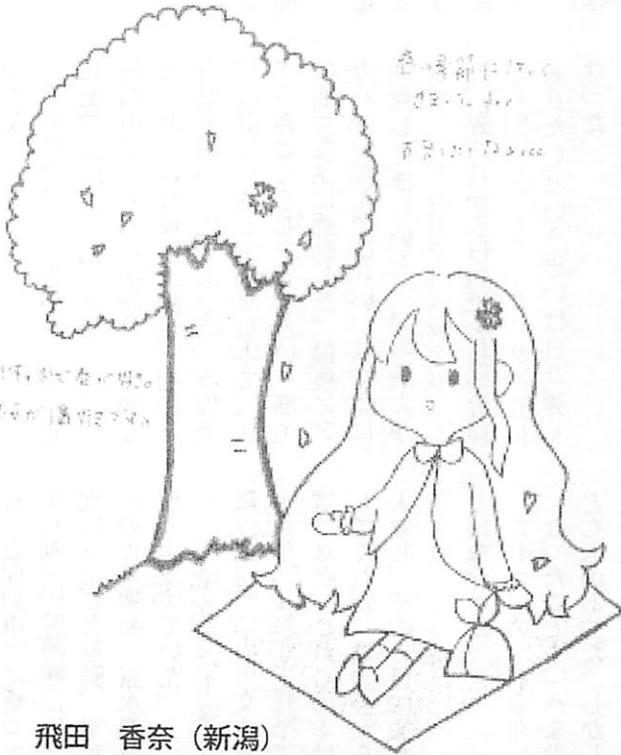
町田 綾子 (上越)

花ミモザ飾りて3・11迎えけり  
君が行く道を照らすや春北斗  
酌み交はす五百羅漢に春の色

広瀬 喜代子 (新潟)



笠原 順子 (新津)



飛田 香奈 (新潟)

文芸

文芸